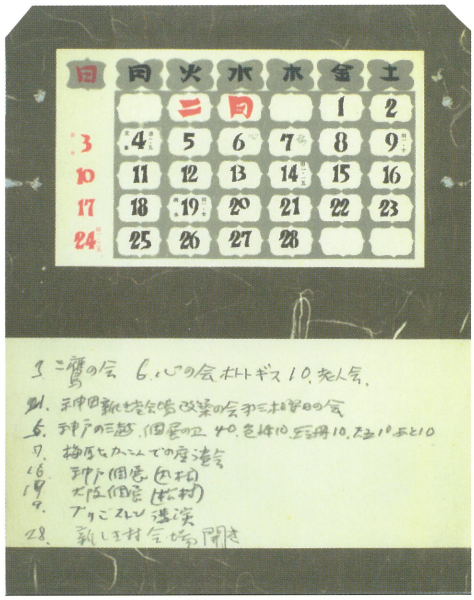
56

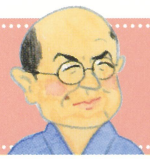
もっと知りたい 武者小路実篤

仕事場としての——
仙川の家

■実篤のひと月の予定

これは、昭和32（1957）年2月に使っていたカレンダーです。下のメモ書きをのぞいてみると、個展に出す画の締め切りや講演会、友人との座談会など、71才の実篤にはたくさんの予定が入っていたことがわかります。



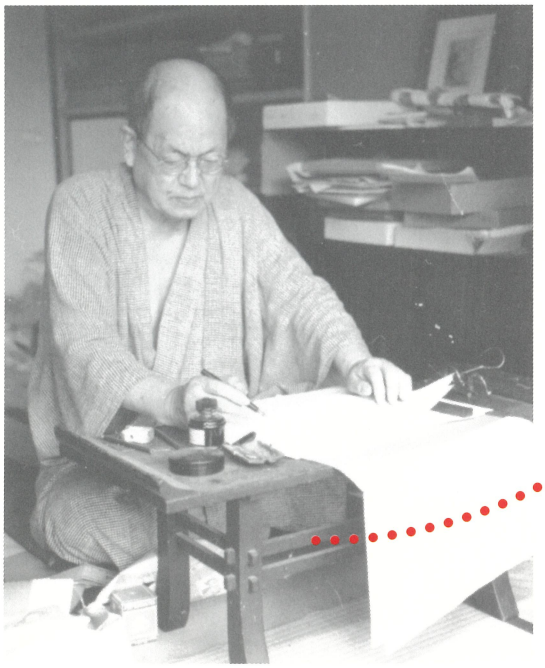


「僕は朝は原稿をかく事にし、午後は原稿はいっさい書かず、画をかく事にしている。」

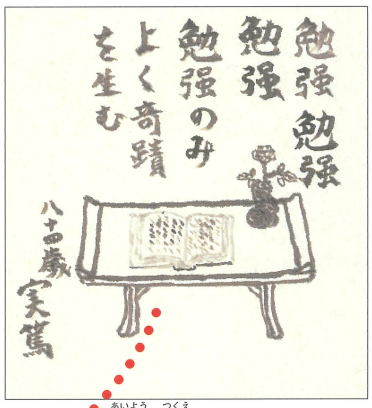
「毎日の生活」（『私の美術遍歴』） 昭和49（1974）年 より

■実篤の一日…午前

今のようにパソコンなどはないので、小さな文机の上で、原稿用紙に一文字ずつ手書きしました。

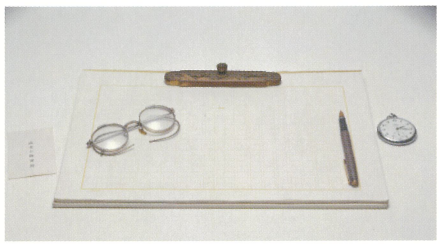


昭和30年代

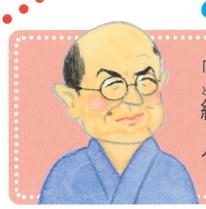


「愛用の机」 昭和44（1969）年

このお気に入りの机を描いた画には「愛用の机」という題名がついています。



どうして午前中に原稿を書くの？



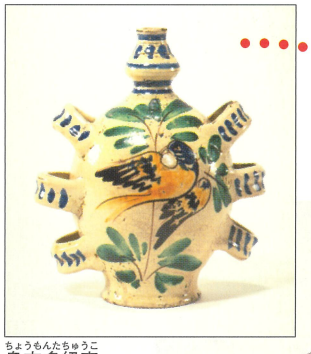
「原稿の方は隣りから話し声が聞えると、どうしても精神統一の邪魔になる。それで僕は午前は原稿をとりに来る人以外は面会謝絶をたてまえにしている。」

「毎日の生活」（『私の美術遍歴』） 昭和49（1974）年 より

■実篤の一日…午後

仕事部屋には、画のモデルとなる野菜や花、人形、壺などが所せましと並んでいます。椅子に座って大きな机に向かい、硯で墨をすり、和紙に筆で「淡彩画」を描きました。

昭和36（1961）年



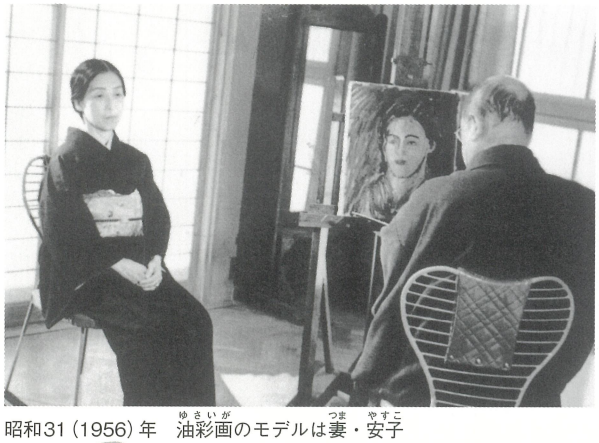
鳥文多紐壺

多紐壺と蜜柑　昭和44（1969）年

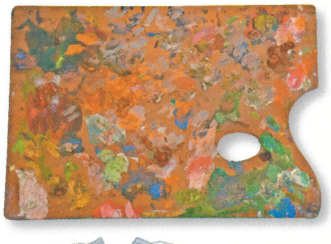
あれれ？硯に穴があいているよ

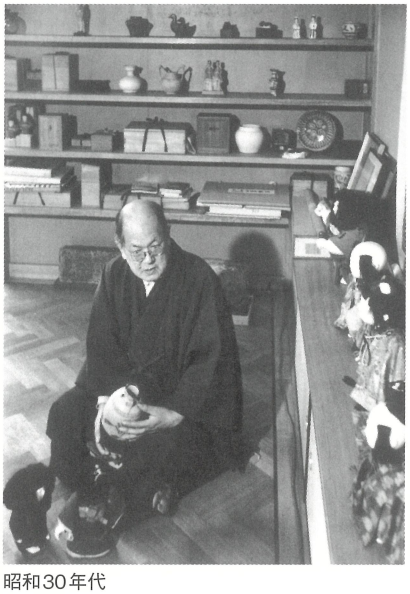
病気で寝込む日や旅行で描くことができないとき以外は、いつも画を描いていた実篤。毎日毎日、墨をすり続けたので、亡くなる半年ほど前にとうとう底をすり抜いてしまいました。

木の枠に布をはったキャンバスに、筆と油絵の具を使って画を描く「油彩画」にも取り組みます。また、昔の芸術家が作った美術作品を鑑賞し、日々、楽しみました。

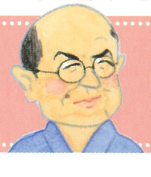


昭和31（1956）年　油彩画のモデルは妻・安子





昭和30年代



「僕は自分が今いる処は仕事場と称して、朝から晩まで、原稿をかくか画をかくかしているわけだ。それが楽しいのだから仕方がない。」

「毎日の生活」（『私の美術遍歴』）　昭和49（1974）年　より

発行日／平成29年7月20日　企画・発行／一般財団法人 調布市武者小路実篤記念館　〒182-0003 東京都調布市若葉町1-8-30　TEL.03-3326-0648
デザイン・レイアウト／今井三樹男　　イラスト／矢口由美子　　資料撮影／川崎　茂　　印刷／株式会社ウエタケ